

平成29年度 晴海中学校 外部評価報告書

評価委員：富永 紀子 石田 敦浩 木皿 儀孝子 庄司 一也 山口 啓朗

評価期間：平成30年2月

1 重点目標の評価

<重点目標1>

「基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、学習意欲を高め、確かな学力の定着を目指す」

- 資格試験への熱心な取組が、素晴らしいと思う。生徒のチャレンジを先生方は、後押ししてくれるのでありがたい。
- 新学習指導要領で提示された内容をどのようにシラバスに生かすのか。これまでのシラバスを踏襲することなく、生徒の学習目的を明確にした、生徒や保護者が活用できるシラバスにしてほしい。

<重点目標2>

「表現力の向上を図り、学んだことを学習や生活に生かす」

- 運動会のカラー活動、文化祭の学年劇、廊下に飾られている掲示物など、生徒の前向きな活動や創作活動に素晴らしさを感じる。
- 保護者のアンケートでは、当目標に対する達成度評価があまり高くないので、アピールもしくは家庭への働きかけなどを行えば良いと思う。
- 「表現力をどう捉えているのか」「表現力が身につくとは、どういう姿をいうのか」「各教科で実践している表現力育成の手立てはどのようなものか、また表現力育成が教科のどの指導項目に役立つのか」など説明してほしい。

<重点目標3>

「学習環境を整え、心のふれあいを通して活気にあふれ、豊かな心と健やかな心身をはぐくみ、「共生」、「博愛」の精神を育てる」

- 生徒が「共生」「博愛」の精神をどのように捉えているのか。具体的に例を出して教えてほしい。
- 当該に対する自己評価は、あまり高くないが、むしろ外部から様子を見てみると年々改善しているのではないかと感じる。
- オリンピック・パラリンピック教育で、義肢装具士の方や選手の講演会、そして劇を通して「共生」についてよく考えているのが分かる。

2 今後の改善に向けた意見

- 新学習指導要領の実施、50周年という絶好の機会に将来を見越した晴海中の姿を描き直して、ワンランク上の実践をされていくことを望む。
- 家庭における指導が前提になるのは当然ですが、生徒たちの言葉遣いの改善・あいさつの積極的な励行を通じて、健やかな心の育成が図られれば良いと思う。

3 その他の意見

- より良い先生方の授業を作っていただくためにも、業務のスクラップ&ビルドを大胆に進めていく必要性を強く感じる。保護者の一員として、協力の呼びかけなど、アウトソーシング化など検討してほしい。
- 学校行事（運動会・文化祭）に、多数の保護者が来校し、大変に良いことだと思う。特に祖父母の方が年々増えていると思う。